

## 平成 30 年度鶴岡市立図書館協議会 会議概要

○日 時 平成 30 年 10 月 12 日（金）午前 10 時～

○会 場 鶴岡市立図書館本館 講座室

○出席委員 樋渡美智子委員 金子 洋子委員 宮島 昭子委員 井上 裕子委員  
伊藤 博委員 三浦 洋介委員 村山 正憲委員 安藤 幸子委員  
鈴木 邦委員 小野寺せつ委員 鈴木 和子委員

○欠席委員 笹山 一夫委員 大久保紀子委員

○事務局 館 長：松浦幸子 主 査：今野 章  
図書館専門員：船岡里佳 図書館専門員：佐藤典子

○公開・非公開の別 公開

○次 第

1. 開 会 主 査

2. あいさつ 館 長

3. 報告・協議

(1) 平成 29 年度図書館事業について（要覧 P.9～21）

・主な事業内容や予算執行状況等を報告 館 長

(2) 平成 30 年度図書館重点施策と主要事業について（要覧 P22～25）

・新規の事業も含め、事業概要を説明 館 長

(3) 鶴岡市子ども読書活動推進計画について

・計画策定の進捗状況等を説明 事務局

4. 閉 会 主 査

### 質疑・協議

委 員：報告を伺って、様々な事業を一生懸命取り組んでおり、新規に中学生への取り組みや小学生のための講座など前進していると感想をもった。中学生への読み聞かせとは具体的にどんな内容であるか。

事務局：中学校へ図書館に対する要望のアンケートをとったところ、鶴岡第一中学校から読み聞かせに来てほしいという声をいただいた。私どもでは、読み聞かせの対象

が中学生というのは初めてであったが、一中の読書まつりの期間である昨年11月に読み聞かせを行ってきた。朝読書の時間の15分をいただいて、一年生6クラスに図書館の職員3人で2日間に分けて行った。三者三様に、素語り、絵本の朗読、絵本の読み聞かせを行ったが、とても真剣に聞いていただき、生徒からは久しぶりに本を読んでもらって新鮮だったという声もいただいた。そのうち、ストーリーの中に思春期の気持ちに触れるシーンのある本を読んだが、生徒さんには心に感じる部分もあったようで、先生方から大変良かったというお話をいただいた。今年度も依頼されていて、今年度は1年生だけでなく2年生にも対象を広げたいということなので、昨年の読み聞かせは好評だったととらえている。

委員：今年度から始まった小学生のための図書館講座の案内チラシが学校に届き、面白そうと思った。虫集めの講座では、それにちなんだ本を子どもたちがたくさん借りていったとのことだが、こうした活動と本を結びつけることはとてもいいことだと思う。そのときの状況を詳しく教えていただきたい。

事務局：市内にプロの昆虫カメラマンがおり、虫の講座の講師依頼をしたところ喜んで引き受けてくださった。子どもたちは、クワガタやカブトムシなどが大好きなので、昆虫を採れる場所などの具体的な内容を依頼した。講座では昆虫が隠れている場所の映像を映し出して、ここに昆虫が隠れているというような説明もあった。親子での参加だったが、子どもたちもお父さんたちも真剣に聞いていた。会場には、関連の本を展示し、児童書ばかりでなく分厚い図鑑や大人向けの本も展示した。興味のある本であれば、厚かろうが、大人向けの本で字が読めなかろうが、この本をどうしても借りて行きたいという子どももいるなど、講座参加者の多くの方が借りていかれた。このような子どもたちの姿を見て、本を手渡すチャンスや手渡す本の内容が大事だと思った。

その翌日は、地元の歴史について調査研究している方がいるので講師を依頼して歴史講座を開催した。明治150年の年であり、郷土資料館でも戊辰戦争の展示をしており、それらに関連して西郷さんと戊辰戦争にかかわる内容で講座をしていただいた。こちらも親御さんも熱心になって聞いていた。

来年以降の講座のことではあるが、座学だけでなく外に出て学ぶ講座もいいのではないかというご提言もいただいているところである。

委員：図書館の職員が講師をやるということだけでなく、いかに周りの人を巻き込んでできるかという視点がこれからますます必要になるのでないかと思う。そういう能力を持っている方は、結構いるという感じがしている。

委員：図書館のさまざまな事業が充実しており、図書館職員やあるいはボランティアの方々のチームワークで、非常にいい方向に進んでいると思う。

ホームページでの事業のPRのお話があったが、例えば、中学校への読み聞かせの取り組みや、小学生への図書館講座についても、去年の様子を写真等で紹介することによってPRにもなるし、去年から今年へとさらに充実していくのではないか。幼稚園、保育園での実際の来館した様子や様々な図書館の利用方法の紹

介があると、今実施している取り組みが、さらに充実していくと思うので、ホームページでのPRは大事だと思う。

委員：私はグループで図書館のボランティアをしているが、図書館で絵本作家の原画展を開けないかと考えていたときに、土田義晴さんが6月に王祇会館で「やくそくの大地踏」という絵本の原画展を開いた。原画展を見た方で、自分の子供が舞ったときのことを思い出して涙が出たというお母さんもいた。土田先生の大地踏の原画をもっと多くの地元の人に見ていただくために、櫛引分館で展示できたらよかったと思った。こうした原画展を櫛引分館でも開催してほしいと考えたときに、以前は櫛引分館の司書にお話すれば土田先生とつながりがあって、話が進んでいき原画展も実現できたのだが、今の実情では誰にお願いしたらいいのだろうと感じた。分館の司書たちの研修会を2回開いたという報告があったが、今の分館の司書には、人とのつながりや企画などを実行できる力を持ち合せていないように思う。私たちボランティアが、どこまでどのように実行していいのかもわからず、分館の実情を感じているところである。

委員：私たちも羽黒地域で「ふくの神どっさどっさどっさあり」という本を土田義晴先生から書いていただいた。また、羽黒地域の小学校の特別支援学級の壁に絵を描いていただいたり、旧羽黒四小にも1年に1回は訪問して、校内の階段や段ボールで作った家にも絵を描いていただいたりした。子どもたちと一緒に絵を描く時間もあった。これらはやはり羽黒地域の人と土田先生とのつながりがあって実現できた。

子どもたちは、機会を作ってあげれば土田先生に直接質問もするし、またこれがきっかけで絵を描くのが好きになった児童もいる。一緒に描いたあの土田先生の絵本だとなれば、興味を持って読むことにつながることもあると思う。

事務局：本館でも原画展を開催し、土田先生からも来ていただいた。開催時期について相談したところ、王祇会館で開催した後の時期であれば可能とのこと、6月に開催している。

委員：建物の耐久修繕のことであるが、きちんと診断をしなければ、長く維持することはできないと思う。江戸時代にできた致道館や、明治・大正の建物もかなり残っているが、我々の時代に建てたものは50年経つとなくなってしまう方向にある。この典型的な建物が小学校で、ほとんどなくなっている。建物はもっと大切にしなければならぬと思う。不具合を直していくことと維持補修をすることは全く違うことだと思う。壊れたところを直していくだけであると、全体の劣化には目が行き届かないことになる。使い捨て文化ができているので、市全体としてもそういう流れだと思う。立派な建物を建てて、長く使うということが大切なことであると思うし、使用する目的が合わなくなれば、別の目的に使っていくこともしなければならぬと思う。都合が悪くなったら壊せばいいと簡単に言っているのではないと思う。市全体の話ではあると思うが、きちんと考えていくべきだと思う。

それから、図書館理念として、生涯学習社会に対応する図書館づくりとあるが、生涯学習と言うと、高年齢の方を対象と考えると思うが、若い人をも対象にした学習も必要だと思う。この委員会の委員も一定年齢に達した方ばかりなので、若い人の意見はどのようなものであるかわからない。子どもたちに習慣づけていけば生涯ずっと携わってくれるだろうと思うが、現実的には、若い人が生涯学習に取り組むようなプログラムや魅力が、中央公民館の事業にもなく、どの部門にもない。人口が、合併当時から1割程度減少しており、先細りになっている。理想だけが大きくて、建物を立派にしても将来的には持て余すようになるので、生涯学習の部分で若い人やあるいは中年の人たちへの働きかけがもっとあってよいと思う。

事務局：小学生までの年代は、移動図書館が学校に巡回していることもあり、図書館の利用はある程度ある。また60代以上の年代の利用も多い。利用の少ない年代が、中高生と20代である。家族での利用は、以前は、どちらかというとお母さんと子どもで来館するケースが多かったが、今は、お父さんとお母さんと子どもたちで来館して、たくさん本を借りて行く家族が増えており、30代の若い親御さんたちが図書館に足を向けてきていると感じている。

小学生の講座を開いたときも、親子で参加しているのは、お父さんであるケースが何人かいて、イクメンという言葉もあるように子どもに関わる父親が増えてきていることが表れていると思う。そういった家族の子どもが大きくなったときに来館しなくならないように、図書館に魅力を感じるような手立てをとっていかねばならないと思う。

委員：図書館の入館人数や貸出冊数が年々減少しているが、いろいろな原因があると思う。児童数の激減のほか、スポーツが盛んになり地区大会から県大会や東北大会まで勝ち進むようになっていたり、一人一人がゲーム機を持ってゲームをやるようになっていたりしていることが考えられる。時代のいろいろな衰勢の中で、本を読まなくなってきたというのは止めようがないと思う。

鶴岡市子ども読書活動推進計画の資料に、児童生徒のアンケート結果がある。家庭で本を読まないあまり割合が、平成25年度から平成28年度で、小学2年生と5年生は、あまり変わらないが、中学2年生になると読まない割合が19.9%から32.2%まで大きくなっている。また、高校2年生になると29.7%から39.2%にやはり割合が大きくなっている。本館や分館でさまざまな事業をしても、小学3年になると読書に親しむ人数が急激に減少をしている。学校のクラブやスポーツなどが始まったり、情報機器などを使うようになっていたりしていることが考えられる。職員やボランティアの方々が各事業を一生懸命やっても小学3年になると減少している。これから、手を加えていかなければならないと思う。

人間の成長の中で、家庭での読書の時間がなくなってきたということは、大きな課題だと思うので、そういうことを念頭に入れてこれから読書活動推進の取り組みを進めていく必要があると思っている。

事務局：平成27年度に策定した子ども読書活動推進計画には、各事業としての取り組み内容のほかに、数値目標を設定している。29年度は、5年計画の中間地点であり、今までのさまざまな取り組みがどのように反映されて、そしてこれからどこを強化していかなければならないかということなどについて確認を行った年度だった。そして今年度は、図書館での新しい取り組みとして、小学生の講座、中学生への読み聞かせ、英語のおはなし会を盛り込ませている。

今年度の新しい取り組みがもう一つあるので紹介する。6月1日付の読売新聞のこども新聞に本屋さんお勧めの絵本が表紙写真入りで紹介されていたので、お子さんたちがたくさん来館する夏の期間にこれらの本もそろえて展示した。また、このこども新聞を多数取り寄せ、自由に持っていけるように配置したところ、お子さんや一緒に来館されたおじいちゃんおばあちゃんからも喜んで手にとっていた。毎年、夏休みの時期は自由研究の関連本の展示をしているのだが、長期休みのこの時期にたくさんのお本に触れてほしい、読んでほしいという思いから、今回は、読書という視点からも企画展示を行った。

委員：一人でも多くの方に図書館を利用していただきたいという思いから、新たな事業を立ち上げて、中学生への読み聞かせなども好評をいただいたという説明もあり、大変頑張っていると感じたところである。

それから、本館と分館の連携についても重要視していることもわかった。分館も臨時職員が二人配置されているが、分館利用者も多くいるので大変な部分もあるのでないかと思う。本館の職員が各分館担当として2名配置しているとのことなので、ぜひサポートしていただき上手に連携がとれるように願っている。

委員：私は図書館活動に少しでも貢献できたらという思いからボランティアで読み聞かせのサークルに入っている。会員とともに年間100件ほどの読み聞かせをさまざまな施設で行っているが、読み聞かせを実施していない施設の職員からもこちらの施設でも行っていただきたいという声掛けがあり、私たちを信頼して要望いただけることがとてもうれしく思っている。保育園、小学校、授産施設、公民館などさまざまな施設で読み聞かせを行っているが、子どもを連れてお父さん、お母さんが一家そろって来館して図書館を利用するところにつながっていく様子を見て、やりがいがあると感じている。

また、生涯学習社会に対応する図書館づくりという点については、山五十川公民館には以前から少しは図書があったのだが、平成27年に山戸小学校が統廃合になり、その蔵書の一部を譲り受け、それらを追加してリニューアルオープンした。今年は3年目になる。そのほかにも、昨年12月から図書館の団体貸出を利用し、地域の皆さんに提供している。読書が好きな方からは、読みたい本のリクエストがあり、それを予約して準備してあげるととても喜ばれる。これからも図書館の団体貸出を利用して、私たちの地域の楽しみの一つとなるように活動をしていきたいと思っている。

委員：私も図書館で子どもたちへのおはなし会に楽しく手伝っているのが、人手不足と

感じる。おはなし会をすることや、保育園、幼稚園、学校に依頼されて読み聞かせをすることは楽しいのだが、仕事や家庭の事情もあるのでなかなか大変である。ボランティアを募集しているが、なかなか集まらない。図書館では、毎年ボランティア養成講座を開いて新しい人が入りやすいように、また私たちも勉強になり、予算をつけていただいている。私たちもできる限り頑張りたいと思う。

委員：たまにおはなし会を見させていただくと、演じている人たちが生き生きしていて表情がとてもいいと思う。そういう意味では、子どもから鋭気をいただいて、糧になっていると思うので、たくさんの人にボランティアについて知ってもらいたいと思う。

委員：小学生の1、2年生は主に絵本を借りている。3年生になると段々絵本から離れ、ある程度の読み物を手にとるようになる子が出てくると、まだ絵本から離れられない子どもは、そういった児童の目もあり、そこで一旦絵本から離れてしまうということもあるようだ。だから授業の中で意図的に本に触れさせて読む機会をつくっていかないと難しいと思う。

各学校の秋の読書まつりでは、いろんな分野の本に挑戦できるような取り組みをしており、図書館では図書主任を集めて各学校の読書まつりの内容を情報交換できるようにしているので、そういう情報をきっかけにあまり本を読まない学校にも試みが広がっていけばいいと思っているところである。

委員長：皆さんから様々な意見をいただき、ありがとうございました。進行役は以上です。

事務局：今日は忙しい中、どうもありがとうございました。子どもたちが求めている本を手に入るチャンスを増やしていくことを使命として頑張っていきたいと思う。本日はさまざまな意見を頂戴し、誠にありがとうございました。これをもちまして平成30年度の鶴岡市立図書館協議会を終了いたします。